

東

機密

急

明治三十八年一月六日
同廿八年一月十日
起草
日發遣

政務局長

命

主任

野田

機密送第 三 號

古畑林公使宛

少村大五

宋秉峻信書字三本ノ付

外務省

宋秉峻了或ハ仰ニ至リテ信書入

封入身中在者トテ字書ニ付進

カシヨ

正印代出ハ他ニ返戻ノ者ハ
送付ノ事ト推トニ包封書

字ニハ宛名ヲ記載スル

檢
査
印

三十八年一月七日

別紙

3

秘

一進會進歩會首領株書筒
主義目的及之ヲ起シテ其理由ヲ知ルニ足ル

松石

REEL No. 1-0721

05 16

謹啓 時下寒氣日々劇甚相成候處閣下益々
御健勝御坐被游候哉御伺申候所后殊ニ無
音不意は宥恕被成下度候備テ軍司令部ハ
長谷川大將落合年謀長西閣下ニ於テ韓官雜
輩連未往一切禁断相成候処公使館ニ於テ何
ト感し候ニ我後前來往頻繁ナリシ公使館前モ
頃日来ト白衣ノ影ヲ認メサハ事ニ相成申候
御恙知一進會進歩會ハ示后益々好況ヲ呈シ
不相妻韓廷ノ暴虐的壓迫アルニ不拘地方進歩會

員拾壹萬餘ニ達シ難林八道ヲ風靡スルニ指顧ニ
迫リ申候抑一進會進歩會ノ主張タル曩ニ表
候四綱領即チ

第一韓國獨立基礎鞏固

第二皇室尊嚴維持

第三弊政改善

第四人民生命財產安固

以上ノ四項ニ御心候而一韓國獨立基礎鞏固
ナルモ現下世界大勢ノ趨向上將ク東洋多端ノ現勢ニ
處シ韓國民克ク韓國ノ獨立ヲ維持シ得ル哉否尙未

ヲ俟タスレテ一進會進步會自ラ兼知スル處ニ御坐候一進會
會進步會カ廢然トシテ奮起セシ所以ノモノハ

第一如何ニシテ李朝五百年來ノ暴虐ヲ政令下ヲ脱セニ歟

第二如何ニシテ吾人ノ生命財產安固ヲ図ラニ歟

第三如何ニセハ他邦ノ軍事的行動若クハ壓迫ニヨル保吞

ヲ免レニ千萬衆ヲシテ永遠ニ奴隸的境遇ニ沈溺セ

シメザルヲ得ハ歟

第四如何ニセハ貳千萬衆ヲシテ文明ニ浴セシメ子々孫々ヲシ

テ永遠無窮福祉ヲ享受セシムルヲ得ハ歟

此四大難關ハ今我韓國民ノ頭上ニ落下シ若シ其途ヲ

誤ハアラニ歟其結果ハ識者ヲ待リスレテ明ヤルモノニ有之候
然ルニ現時ニ於ケル韓皇陛下及ヒ韓廷ヲ圍繞セル韓官
ハ恁ル理想ヲ以テ行動シフヤルモノニ非サハ事ハ世界各國
民ノ認識スル處ニハ坐候是レ一進會進步會奮起ノ機
運ヲ作り以テ此大任ヲ負荷セサハ可カラサルニ至リタルモノニ候
而テ一進會進步會兩會員自日本政府及ヒ日本國民ニ
對シ二十七八年清國征討ニ將々現下露國膺懲ノ出師
ニ唯々春秋之大義感服ニ不堪トノ辭禮ニアラス誠心誠
意感謝スル處ニシテ韓國ニ對スル日本ノ最大權域ヲ認
ムル而已ナラス自ラ進テ殿聖允武ヤル

日本皇帝陛下ノ侍聖徳ニ沿シ以テ東洋平和ノ保障
トナリ若シ將來東洋平和ヲ破ラントシ若クハ障壁ヨタルモノ
アラシク進テ君ノ御馬前ニ跪シテ決心致候是レ時
局ヲ濟シ韓國民ヲシテ永遠ニ福祉ヲ享受セラル維一
ノ経路ハ他ニアラザルコトヲ自覺ニ在候結果ニ御坐候故ニ
一進進歩西會ニ於ケル有識者ノ主張目的ハ
韓國ノ内治外交ヲ日本政府ニ一任シ内治ノ刷新ト外
交ノ伸張ヲ圖ラシ韓國民ヲシテ日本臣民ト等シク
待遇セラシ韓國民ノ子弟ヲシテ教育レシテ文明ノ
學術ト共ニ日本語ノ普文ヲ圖ラシ賴テ以テ韓國民

ヲシテ自立ノ民タラシメラシム事ヲ期ス

此主張目的ヲ韓國民自ラ進テ日本政府ニ要請セント
欲スルモノ是レ進進歩西會ノ真隨ニ御坐候然ルニ韓
廷々圍繞スル韓大官ハ此主張目的ニ同意スルモノニテラス
之レ參政以下各大臣各觀察使其他總テノ韓官排撃ノ
不得已モノニ有之候既往ニ於ケル韓廷ノ通譯タル政務
奪ノ如キ一進々歩西會ノ關スル知テラス吾ハ別ニ本領アル
ニ御坐候

爰ニ三十年來政權爭奪以外何等ノ感念ヲ有セサル韓
官雜輩連ト交際セシ日本人ノ眼中ニ映スル韓民ノ恠

ハ擧ハ不可能ト可被考候モ之シ官尊民卑ノ弊尙未ダ
脱セサハ日本人ノ正何品ヲ標準トシテ韓民ヲ視タル罪
ニシテ韓國民ハ日本人ノ思惟スル如キ無氣概ノモノニハ
無御坐候其証左ハ

一 斷髮ハ韓政府ノ禁止スル処令ニ背キ犯スラハ斬首ノ
刑ニ處セラハ、ニ不拘當初一進會員數百人一併斷髮
シタルモノ之ノ五ニ死ヲ決シ目的遂行ノ誓約ヲ表示シ
タルモノ不言ノ間大ニ真意アルモノニ御坐候而テ今我此
誓約ノ下ニ結党セシモ格壹萬餘ニ達シ申候
二 京義鐵道沿線タル黃海平安兩道ノ進歩會負

ハ日本ニ信頼ノ意志表示ヲ唯々口頭ノ文章ヲ以テ盡
セストナシ進ニテ按鉄路ニ要スル勞役ニ對シ無償勞
役ニ服セシヲ軍司令部及鐵道監部ニ要請セ
リ而テ無償ハ日本法規ノ許サハルトノ事由ノ下ニ切當
ノ勞銀ヲ支給セシ今我各方面等ニ進歩會役負
指揮ノ下ニ此ノ支障ナリ勞役ニ服シ居候而テ支給
セズ、勞銀ノ内食費ニ要スル錢額ハ總テ積立進テ
暴露脅德軍事費トシテ日本政府ニ獻金候事ニ
決議候向為ス實行可仕候
三 咸鏡道ニ於ケン進歩會負ハ是又日本軍隊浦

塩方面進軍ニ要スル輜重ノ任務ヲ負担仕度旨當
該司令官ニ要請仕候許可ノ上ハ必ス遂行可仕尙
支給セラル勞銀ハ京畿沿線ト等シク軍事費ニ献
納決議致候

四京元鐵路御着子ノ曉ハ京畿江原咸鏡三道ノ進
軍會負ハ之カ労役ニ服シ勞銀ハ是又軍事費ニ
献納可致候

以上ノ事實ハ後來朝鮮通ヲ以テ任セラレタル日本ノ
殊ニ意外トセラルル処ニシテ此朝鮮通ヨリ誤傳誤知セラ
レテアリシ日本國民一般ノ嘆息セラルル處ト存候元來韓

國民ノ眼ニ映シタル日本人ナルモノ忌憚ナリ申候得ハ
左ノ如クニ假拙者ハ將來ノタメ腹藏ナリ申上候

一日本人ハ反復無常無信義ノ士ナリ

二日本人ハ不潔ノ金錢ニヨリ左右セラルル士ナリ

三日中人ハ官トナク商トナク唯々缺卷ヲ加フルヲ以テ無上
ノ權カラホスモノト信スル野蠻性ノモノナリ

故ニ政權爭奪ニ狂奔スル韓官雜華連カ自ノ努力
維持若クハ發展ノ必要ヨリ利用的ニ交際スル歟不レハ
方法ヨリ金錢上關係スル歟若クハ下等社會而已ニシテ
多ク志アル中等以上ノ韓國民ハ在留日本ノト交際スルヲ

以下大元 取辱ト致候事ニ御座候其理由ノ概要ハ

一 金玉均氏等ノ改革運動ノ際ニ於テハ竹添公使ノ行動

一 東洋党増殖ノ動カタリシ日本人及ヒ日本代表者ノ行

動ヨリ延テ日本政府最良ノ處置

一 藩民公同會ニ於テハ加藤公使ノ行動

一 野津加藤兩顧問ノ指導誘掖ニテ韓廷ハ益々暗

黒界ニ化シタル事實

一 日本公使館員カ恒ニ宮廷ヲ賂ヒ 輕重ヨリ左右セラ

レワハルノ事實

一 井上角五郎大江卓大ニ韓長兵衛牛場卓藏其

他數顧問ハ何レモ其行動ニ微スニ信義アリトシテ

スレテ金錢ノ奴隷タリシ事實

一 今回一進會組織ノ當初林公使萩原書記官ハ其

煽動的態度ナリシニ不拘中途ニ變其々ハ宮廷ヨリ

數萬圓ノ解散料ヲ玄暎運ヲ介シテ着服シ高キ

一 進會解散保証ノ下ニ於テ東俱樂部資金ト

シテ韓自白ヨリ三萬圓寄附セシメ得タリトナリテ

難ノ聲アル荒蕪地問題ヲ一進會解散ト交換問題

トシテ韓廷ヲ威迫シタルカ如キ之ヲ決シテ信義ハ行

動ト認ムヘカラス

一在日商人之討スル韓必民ノ感情ヲ案スルニハ
日本人商店が輸出商若クハ高利貸業又ハ日本
人向諸商店ナルニ及シ支那商店ハ何レモ輸入商
ニシテ韓人向商店ナルヨリ考察セハ其一般ヲ知ルヲ
得

後来日本人ノ無信義ナル行動ヨリ血アリ涙アル韓
士数千名ハ毒刃ヲ下シ斃レ候而已ヤラス韓國ノ弊政ハ
日本ノ反覆無常ナル政策及ビ其後ヨリ馴致シタル
ヲ多ク有之候之レ韓國ノ表面而已ヲ知得セハ朝鮮通
日本人ノ諷ラシメタル事蹟ニ御坐候

然ハ日本ノ民論ナルモノ大ニ尊重スルキモノタル事ハ民
論ハ遂ニ政府ヲシテ日露開戦ニ至ラシメタル事蹟ニ
照シ韓國有識者ノ大ニ感得セシムル御坐候而テ日露
戦役ノ結果日本カ韓國ヲシテ現状ヲ維持セシムルニ
アラサル事ハ是レ將々韓國有識者ノ感得セラル處ニ惟然
レトモ韓國ノ政權ヲ李氏及ヒシニ附随スル韓官紳輩
ニ托シ日本政府將々例ノ懷柔手段ヲ弄スルニ托シテハ
其結果ハ識者ヲ待タスシテ明ク處遂ニ日本民
論ノ默認セサル處トナリ相互ノ衝突ヲ將々壓迫歟
其果ハ韓國民ヲシテ憂鬱ノ民ト均シキ境遇ヲ

甘受セザルノ不得止ルニ至ラシムルハ韓國有識者ノ夙ニ
認識スル處ニシテ之レ韓國民ノ耐(忍)ヲ能ハサル而己ナ
ラス壓迫ノ結果僥ニ現象ヲ生セハ陽ニ後フト雖モ陰ニ
反ステウ現實ヲ呈シ百世ノ禍根タルハ是將豫想スル處
ニ候故ニ(一)而世ノ禍根ヲ一掃シ(二)東洋ノ將來ニ對シ最
全策トシテ(三)日ナリ對韓政策ノ真意ト契合シ(四)韓
民永遠福祉享受最良策トシテ堂々上主張目的ヲ
貫徹セシメ(五)進會進歩會ハ執中致居候若し例ノ
朝鮮通ニ誤リ日本政存ニ於テ一進會進歩會ノ
主張目的ヲ誤想シ同意セザルハ日本ノ民論ハ

必ス韓國ノ民論ニ賛成同情ヲ表シ日本政府ニ要請ス
ルニ至ルハ韓國有識者ノ深リ信シテ疑ハサル處ニシテ之
一進會進歩會ハ後素ノ如ク公使館ノ指揮如何ニ育
後セシ如キ基礎薄弱ナルモノニアラスシテ會員確信ノ
堅固ナルト同時ニ基礎鞏固ナル所以ニ御坐候
又カニ傳聞スル處ニヨレハ日本外務省ハ例ノ朝鮮通ニ
誤ラレ將テ人道ヲ無視シ陽ニ日本ニ後ヒ陰ニ露國ニ
通シワアル韓廷ニ利用セシ一進會進歩會ヲ以テ暴
徒ニ擬シ正ニ鉄槌ヲ加ントストリ誤アリ若し信ナリト
セハ日韓均ク國民ヲ齟齬スルモノハ政府ニ御坐候萬一日

本政府及日本國民ニシテ一進會進歩會ノ主張目的ニ賛成同情ヲ不表及テ暴虐ナル韓廷ヲ助ケ撲滅セシメント欲スルニ於テハ李朝ニ離叛セハ韓國民ハ不得已日本ニモ離叛シ或ハ英ナリ米ナリ獨ナリ佛ナリ吾ヲ助ハモリニ救援ヲホメ可申候韓廷ノ暴虐ハ若國均シク認識スル處然ハニ更ニ日本カ助クル如キアラニ歟僥ハ壓迫ニ堪ハサル韓國民舉テ救援ヲホクルアラハ各國ハ人道上決シテ無視セザルハキハ吾人ノ信シテ疑ハサル處ニ候若シ僥ハ現實ヲ呈スルハモ之韓國民ノ罪ニアラスシテ日本政府及日本國民自ラホメ將ク侵スノ結果ニ

御坐儀

現時ノ韓廷ハ唯一ノ露國党人李允用(軍部大臣)李完用(宮内府特准官)(李兄弟ハ二十九年韓皇ヲシテ露館ニ遷幸セシメタル主動者)李根澤(扈衛)隊隊長日露開戦前露兵三千借兵ノ主動者)ノ如キヲ以テ圍繞シ彼等ハ日本公使館員及ヒ其顧問等ノ推選ニヨリ過般任命相成候一進會進歩會カ現政府ハ露國ノ党ニシテ將ク暴露ノ惡政ヲ演スルモノナリト叱咤候ハ敢テ根據ナキコトニ無御坐儀一進會進歩會ノ主張目的ハ帝上ノ如クニ候間

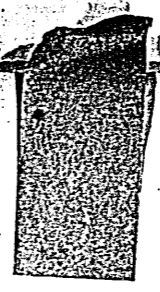
何卒此際日本政府及日本國民ニ於テ韓國民
情ノ誤傳ヨリ相互意志不通不可測ノ悔恨ヲ脱
サレ様御留意御盡力悃歎仕候
堂上主張目的ハ必ス實行仕候萬一相付キ候
片不肖案秉峻腐リ首ニ恨モ閣下ニ献上可
致恨血アリ涙アハ閣下吾二十萬衆ノ衷情御推
察被成下度候忽々頓首

明治三十拾七年十二月二日

宋秉峻
再拜

松石大佐殿閣下

十



大臣

電信課長

幣原

次官

主管

政務

生

印

印

電受第五一號 明治廿六年一月十七日午後一時三十分 發

小村外務大臣 謹啓

在州地多々不穩 歸一之んを

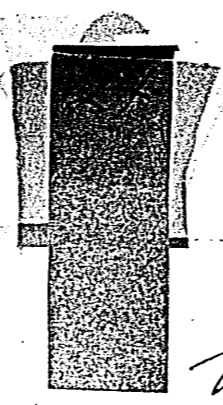
上徳ノ界治整部 歸一署

原しん 翌一昨十五日 隨河出查上共

外務省

廿年丁酉署

3
印



Handwritten notes and stamps at the top right, including the characters '以元' and 'チル'.

15/1

昭和八年一月十九日接電

機密第五

主務政務課

印

3

釜山地方に於ける韓人結社等之関係
状況及警察案極密増設之関係
右之関係に釜山領事報告書別紙厚紙本
巻込に美芝書右末段に記載有秋野
案機關之常回内地に常設不件、開
る日領事、意見、從來は訓示、終身モ
有る美芝書付警察案極密増設之件ハ
可成ハ速、内閣極密不呈標内註議有
度其後附ハ申進有別具

明治三十八年一月十日

在韓国

特命全權公使 林權

在韓國日本公使館

外務大臣 田代三喜 小村壽太郎 殿

概論第一 辨別

一進會其他韓人結社ニ関スル報告

并ニ韓回安寧秩序ヲ維持スル件

付、向中、件

客年十月三十日、發賣定算、一九七辨ヲ以テ一進會其他集會結社ノ取締及其報告方ニ関シ、訓示、趣致、致承、其、常備、管內ニ於テ、韓人思想ノ傾向、實利ニ偏スル、故ニ、中從、未、此種、集會、結社等ニ對テ、感念ハ、此種、的、冷淡、ミレ、最近、曾、事、端、惹、起、ス、ル、事、言、之、勿、論、地方ニ於テ、對、局、年、小、保、争、其、中、中央、政府、對シ、徵、稅、問題等ニ、關、聯、シ、テ、然、嘆、ノ、声、ヲ、振、ツ、カ、如、キ、事、例、多、ク、アリ、サ、ル、モ、概、

在韓國日本公使館

平、平、靜、ニ、シ、テ、未、ク、結、社、集、會、等、ノ、其、年、ニ、出、ラ、タ、ル、モ、ノ、ア、ラ、タ、客、年、未、始、港、附、近、ニ、於、テ、高、人、ノ、結、社、名、高、務、社、對、盟、理、ノ、小、保、争、アリ、タ、ル、事、之、亦、直、ニ、解、決、ヲ、見、ル、ニ、至、リ、タ、矣、將、又、京、釜、錢、道、工、事、モ、當、地、方、面、ニ、於、テ、ハ、當、テ、豫、想、セ、ラ、レ、タ、ル、カ、如、キ、應、感、情、ヲ、韓、人、ニ、與、ヘ、サ、リ、シ、ノ、ミ、テ、又、却、テ、工、工、費、其、他、支、拂、依、リ、邦、人、ニ、對、シ、テ、意、向、ハ、良、好、ト、シ、至、リ、シ、ト、我、國、力、ノ、發、展、ニ、其、等、韓、人、信、賴、ノ、念、ヲ、依、リ、錢、道、法、律、修、訂、方、ノ、如、キ、人、心、殊、ニ、平、穩、ト、有、ル、ニ、此、種、結、社、ハ、最、モ、便、利、ト、シ、大、印、府、ノ、如、キ、ニ、於、テ、モ、何、等、問、題、亦、無、ク、モ、各、之、其、他、社、對、山、度、亦、清、項、一、世、帯、地、方、ヨ、リ、モ、又、常、ニ、同、様、ノ、報

告、極之居外地方、較モスル、事端ヲ生シ易キヲ以テ名アリタルモ、又均敷平靜ナルカ、可嘉一現象ト存スル方面ニハ、間々發言ノ官ノ世張心回ル、為サシムルニ、過キサリシモ、今回ハ、長生の兩捕縣會社ト文譯ノ上、只般來心查一名ヲサ附シ、駐在ヒシ、本邦人保護復取済ニ兼テ附シ、情報ヲ得ルニ便ナラシメ居矣
如上一般人心ハ、現時際、平穩ニ莫得共其間高未福振、伏在ヒサトキヲ必ニ難ク、以訓カ、越首ニ從シ、自命會社等ニ關シテハ、今後之ハ、精査報告ヲ可致ト共ニ、徒ニ騷擾ヲ醸シテ却テ治安妨害ヲ好害スルニ至ラシメサレ、極事
前、於トハ、論告ノ一方法ヲモ、お諸ニ、作リ、

在韓國日本公使館

而シテ、管内保安ノ道、關シテハ、豫テヨク、洋系戒飭ヲ怠ラサレ、義ニ有之者モ、右ニ要ス、諸般施設ハ、之ヲ警察案制度ニ俟ツモ、多キハ、中近モ、無之、然ルニ現時ノ如ク、僅ニ、錢道會社若クハ、他會社銀行ノ補助支給ヲ俟ツテ、漸ク、事ニ便スルカ、如キ狀態ニ於テハ、満足ナル結果、收テ、難ク遺憾、點不少、本件ハ、再三稟申シ、及至、直ニ、廉モ有ク己ニ、何カ、ハ、詮議、亦必在、至、庫トハ、存ス、得共、尚、殊際、何カ、慮、直ニ、ヲ、採ルヲ、得セ、シ、ラ、テ、度、極、甚、度、目下各地駐在、警察官ニ對シ、韓人ノ意向、解、良好ニシテ、解、其、信、賴ヲ、受ケ、韓人間相互ノ、係、事、事、件、其、ト、郡、守ニ對シ、訴、窮、等、ヲ、モ、訴、出、其、力

此等事多事人少作是般官内也回、皆二モ
親シク見聞致去野、其モ駐在ノ員僅小ニシ
テ事件繁多ナル地方ニ在リテハ必要不
得止モ、外可成其等ノ事件ノ關係々々
様訓示收置其様ノ義ニシテ其際我
警官等様能ラ内地ニ當設スルハ本邦人
利益保護其渡ノ難アリ、勿論内務行政ノ基礎ヲ樹立スル上ヨリ且モ
緊要適切ナリト認ムトモ、有之ニ本件ニ関シテハ
ハ尙未何分ノ定議未始其様形及於段併
ビテ及員申去様其未

明治三十九年丁酉七月廿

在在事

領事 青 吉 明

在韓國日本公使館

特命全權公使 林 權 助 殿

明治廿八年一月廿六日接受

陸軍部

發第一一七五號

受第一一七五號

一進會等右會往狀況

右人

次下

其書

去年十二月三日日本使ノ第七九三號電ノ票
 後駐韓軍司令官友ト協議シ著々各地
 秩序ノ回復ヲ圖リテ遂ニ一進會等ノ
 本部トシテ信實六部ヲ添付シ軍令
 發布ノ後一層靜謐ニ一進會其他各
 徒モ之ヲ存ノ辭教シ各地方ヨリテ
 次第進出シテ軍令ヲ遵守シテ
 初多ク人目ヲ惹キタルノ感アリ之ヲ
 等物減シ生ズルニ至ラス秩序ノ維持
 基礎ヲ固クシテ一進會等ノ親善之
 在韓國日本公使館

極ノ好都合ト存修布陣新同線上大軍令
 發布及本使ノ各領事ヲ通シテ韓國民ト与
 以テ論達ニ圖リテ韓廷カ抗儀ヲ提出セシ
 祀載ノ向ニ有之候トモ右ノ全ク各相ニ
 当地駐在右國代表者トテ更ニ右ノ精
 異様視スルニ態度モ無ク之ハ尚ホ右
 使ノ第七九三號電ニテ電票改修各領
 事ノ訓令ニ對シテ各領事告事ノ結果ノ極
 ノ吹渡シ此分ニテ推進ノ帝國勢力ノ基
 礎ヲ地方ニ固クシテ其ノ一ニ其ノ一ニ
 右ノ各員常及所教具
 明治廿八年一月十八日
 在韓

特命全權公使林權助
外務大臣男爵小村壽太郎 殿



在韓國日本公使館

月

明治二十八年二月六日接受

公信第二六號

シテ

生

田

田

3

客年十二月廿四日号電第三十九號ニ関シ
全州ニ出張ヲ命ジタル関谷警部ヨリ別
冊復命書提出致候ニ付不取敢林公
使ニ進達致置候得共尙為念茲ニ及
進達候条御査閲相成候様致度
候敬具

明治二十八年一月廿一日

在京城

領事 三増久米

在京城
領事

外務大臣男爵小村壽時大郎殿

在朝鮮國京城日本領事館

公信第二十九號附屬

全御府一進在在事靜觀其後備下

在羅山通觀其後備下事種... 内々多敷一進在在事種... 之類、勤作多ク之種、仕ク星ノ下ニシテ政府... 報事し政府一特、在在事種... 劍ヲ揮收レヨリ在在事種... 之レヨリ在在事種... 台ヨリ在在事種... 便布事種... 在在事種...

在朝辭國京坂日本書院

達レヨリ在在事種... 直也公遺説ヲ傳レヨリ在在事種... 本々在在事種... 迄テ在在事種... 東レ持テ在在事種... 事々大アハ在在事種... モノアリ在在事種... 二書報レシクモ、如シ而テ在在事種... ル、在在事種... 至急ヤリシカモ在在事種... 之ニ在在事種... 之者、在在事種...

人々、華師等志、概して他人、偏見、
擲と一中、から事、い、
中、之、
附世、
去せし、
除き、
世人、
世上、
之、
之、
之、
之、

在朝鮮國京城日本領事館

此、
之、
之、
之、
之、
之、
之、
之、

陳者トシテ其意果シク如何或一進者
対之威赫的ニ生ラズルヤ一進者多ク
之ヲ我覺ニ対スオメト思推シ更ニ兵兵善基
ノ説ヲ流布スルニ由リテ事ヲ成ラセト
抑モ各地一進者多ク在リテ同シク
今四州メテ各地ニ事務所ヲ置キテ
解散シテ形ノ全無ニ至リテ其ノ
事案外ニ也即ニ事務所ヲ置キテ
及テ計運ヲ行フニ在リテ其ノ
カス理ヲ考ヘテ其ノ出入ノ
極メアル地ニ在リテ其ノ

五朝新國京城日本領事館

ナリ在長ニ在リテ其ノ副官長ニ事務所ヲ
而シテ其ノ中別ニ各名ノ者アリテ其ノ
級人物ヲ以テ其ノ中別ニ各名ノ者アリテ
シテ其ノ中別ニ各名ノ者アリテ其ノ
而シテ其ノ中別ニ各名ノ者アリテ其ノ
可ラズ各地ニ在リテ其ノ中別ニ各名ノ者
服ヲ以テ其ノ中別ニ各名ノ者アリテ其ノ
口譯者ノ感ニ及リテ其ノ中別ニ各名ノ者
ニ在リテ其ノ中別ニ各名ノ者アリテ其ノ
服ヲ以テ其ノ中別ニ各名ノ者アリテ其ノ
シテ其ノ中別ニ各名ノ者アリテ其ノ
或ニ其ノ中別ニ各名ノ者アリテ其ノ

事猶多等ノ事種ニ傳在スル如キ何事姑ケ凡
 可ラズト認メラントシムナリ
 茲ヨリ遺囑トスル所ニ邦々一進在リ日本政府
 ノ保護下ニアンモト一般恩推ス情態之シテ
 之シテ實ニ親善ニ依リテスル日也一進在リ
 之者モ多ク然リトス前陣ニ師事ナリ
 鏡ヲ授ケ在リトヨリニカクモ如キ感ニ以テ誤解
 ナク在リテ誤解ヲ與フニ出テスルコト
 孰カモナリハ友ニ之シテ對シ日也政府ニ韓王
 ノ獨立精神ニ尊重維持ニ就テハ意ヲ努力ス
 所見ニ波ノ一進在リ如キ何事姑ケ凡
 保護スルコト金武事ニナリ所見ニ尊重ニ
 誤解誤解ナカトヨリ期シテ之ニ就テ始テ親
 善ニ依リテ釋然ニ然ルコト果シテ之ニ事ナク
 リセハ一般恩推ス情態之シテ誤解ナク
 釋然ニ然ルコト古ノ友ニナリテ之ニ就テ始テ親
 ト想フコト之ニ就テ目下ノ情態ニ依リテ親善
 シハ宗國ニ對シテ親善ニ依リテ之ニ就テ始テ親
 ニシテ若キ者ニ依リテ下ニアンモト感ニ依リテ情態
 ナリトヨリ誤解ニ依リテ之ニ就テ始テ親善
 中要ナルコトニ感シテ之ニ就テ始テ親善
 ナリトヨリ誤解ニ依リテ之ニ就テ始テ親善
 副在リ長キ風情ニ依リテ之ニ就テ始テ親善
 在リトヨリ誤解ニ依リテ之ニ就テ始テ親善
 ト認メ然ルコトニ就テ之ニ就テ始テ親善
 而シテ更ニ在リトヨリ誤解ニ依リテ之ニ就テ始テ親善

在朝鮮國京城日本領事館

五十五
系
CP

門外に日軍少隊を立寄る以上上ノ主事意は退
 去無生ノ意ヲ亮(生)せしむるナラば正
 しく即ち海軍退去し(退)るべき事也
 幸々アリし(幸)に本(本)日(日)ノ事務(事務)欠ト(欠)移(移)る(る)事
 強(強)し他(他)ノ事(事)務(務)退(退)去(去)る(る)事(事)也(也)
 然(然)る(る)に(に)本(本)日(日)ノ事(事)務(務)退(退)去(去)る(る)事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)
 十六日(十六日)ノ事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)此(此)ノ事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)
 トシテ強(強)制(制)退(退)去(去)せし(せ)メ(メ)茲(茲)ニ(ニ)全(全)ク(ク)地(地)一(一)人(人)ノ(ノ)情(情)
 面(面)者(者)事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)然(然)る(る)に(に)本(本)日(日)ノ事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)
 親(親)軍(軍)は(は)此(此)ノ事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)破(破)壞(壞)し(し)テ(テ)配(配)送(送)さ(さ)る(る)
 ト(ト)此(此)ノ批(批)判(判)を(を)進(進)め(め)る(る)事(事)也(也)ト(ト)コト(ト)ナ(ナ)ル(ル)事(事)也(也)斯(斯)ル(ル)
 事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)而(而)も(も)
 在(在)朝(朝)鮮(鮮)國(國)家(家)領(領)土(土)内(内)に(に)在(在)る(る)事(事)也(也)
 然(然)る(る)に(に)本(本)日(日)ノ事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)
 又(又)シテ(シテ)大(大)隊(隊)ヲ(ヲ)派(派)入(入)ル(ル)事(事)也(也)是(是)レ(レ)以(以)テ(テ)以(以)テ(テ)以(以)テ(テ)
 注(注)意(意)せ(せ)し(し)む(む)る(る)事(事)也(也)形(形)勢(勢)カ(カ)ラ(ラ)ズ(ズ)
 平(平)穩(穩)ナ(ナ)ル(ル)事(事)也(也)最(最)モ(モ)亦(亦)ト(ト)思(思)は(は)る(る)事(事)也(也)
 持(持)続(続)す(す)事(事)也(也)本(本)日(日)十二(十二)ノ事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)
 運(運)送(送)す(す)事(事)也(也)
 然(然)る(る)に(に)本(本)日(日)ノ事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)
 又(又)シテ(シテ)大(大)隊(隊)ヲ(ヲ)派(派)入(入)ル(ル)事(事)也(也)是(是)レ(レ)以(以)テ(テ)以(以)テ(テ)以(以)テ(テ)
 注(注)意(意)せ(せ)し(し)む(む)る(る)事(事)也(也)形(形)勢(勢)カ(カ)ラ(ラ)ズ(ズ)
 平(平)穩(穩)ナ(ナ)ル(ル)事(事)也(也)最(最)モ(モ)亦(亦)ト(ト)思(思)は(は)る(る)事(事)也(也)
 持(持)続(続)す(す)事(事)也(也)本(本)日(日)十二(十二)ノ事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)
 運(運)送(送)す(す)事(事)也(也)
 然(然)る(る)に(に)本(本)日(日)ノ事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)
 又(又)シテ(シテ)大(大)隊(隊)ヲ(ヲ)派(派)入(入)ル(ル)事(事)也(也)是(是)レ(レ)以(以)テ(テ)以(以)テ(テ)以(以)テ(テ)
 注(注)意(意)せ(せ)し(し)む(む)る(る)事(事)也(也)形(形)勢(勢)カ(カ)ラ(ラ)ズ(ズ)
 平(平)穩(穩)ナ(ナ)ル(ル)事(事)也(也)最(最)モ(モ)亦(亦)ト(ト)思(思)は(は)る(る)事(事)也(也)
 持(持)続(続)す(す)事(事)也(也)本(本)日(日)十二(十二)ノ事(事)務(務)欠(欠)ト(欠)移(移)る(る)事(事)也(也)
 運(運)送(送)す(す)事(事)也(也)

REEL No. 1-0721

0542

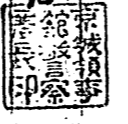
サ待テ既所ナリトコトナクヤ觀其仕ハ退去
サ奉レ上ニ之レ通ル可ク言フ所アリハ
亦有也其者アリトクシ決シテ玉穂ノ御事御人
可ク此處有長ノ東ニヤ、ワラス一旦退去
スレ相立トスル上ニ御事出シテ各ニ道ニ退
散シテ以テ少長ニ世換等アリ別レテ其御事
御事ノ御事ナリト相立トスル上ニ御事出シテ各ニ道ニ退
御府ノ一人ヤ、御事免カレ其所ト認メスル
テ独ニ御府ノ限ミ自下ノ仕態上侍東
各ニ道ニ退散スル中ニヤ、御事出シテ各ニ道ニ退
其所ナリト認メス
右ハ現ニ御事出シテ各ニ道ニ退
一括ニ御事出シテ各ニ道ニ退

在朝鮮國京城日本領事館

西曆一千九百零一年一月十九日

日本領事館長

長



御事出シテ各ニ道ニ退

空

明治三十八年三月十九日

公牙五一附

受取三七二五

高雄書記生大印出張報告

要領報告ノ件

本月初旬付の公牙四の報告に於ては、以テ報告に及置候
如クハ、賊ニ襲シ觀察復、文書ノ件及最近一
進層ニ於テハ、大印之支部ヲ設ケ持派多ク道ニ
演説集會等ノ舉ニ出テケルヲ以テ、急ニ之等
ノ情況ヲ調査スルノ必要アリト、兼テ道路ノ設
計等ニ及スルニ、新報ヲ世帯ニ送渡帶在三百
餘定ヲ以テ、高雄書記生ヲ大印ニ出張セシメ
シ、其ノ報告要領長ノ如クニ指シ之ル
申界

二 進層ノ現状

外務省

一 進層支部ニ於テハ、本部ヨリ李容九、尹甲炳
宋秉琦、金振奎等ノ来印ヲ、概トシテ同市
利用シ、本日百觀德堂ニ於テ演説會ヲ
開キ、其ノ論旨ハ、概テ同一ニシテ、何レモ日本ヲ往
リシ地方ニ在リ、一國ニ對シテ、誅求ヲ攻撃シ、新觀察
使李容九ヲ批シ、其ノ法行政ノ區別ヲ論シ
テ、裁制所ノ必ナリヲ説キ、裁制長ニ同盟國ノ日
本ハ、以テスレバ、其ノ主張ヲ為シ、殊ニ教育官等
ニ及シ、世ハ、其ノ意ヲ流シ、其ノ言ヲ所止、自
其ノモリトシ、起シテ、傍聴人ヲシテ、日本ノ
諸ヲ探ルモノ如此、演説ヲ為シ、其ノトニテ、終
テ、リトシ、テ、所記ノ由、李容九、尹甲炳、宋
秉琦、兩氏、大印ニ於ケル、同會ノ情況ヲ

尊き見と三人共口ヲ持、テ大卸人心ノ願國志
 ヲ以テシ熱心素勞ヲ為スモ未タ一人モ真ニ正ノ居
 たり得ず、即座同地ニ基柱之ヲ置クヲ經シトナシ
 廣崇道全部ノ具也ナリト新定キリ而シテ左
 等同僚ノ有志、李親察使ニ面會シ施政
 上ノ注意ヲ與フ、李親察使ハ概ニ快ク之ヲ
 善議シ其手故トシテ洛東江漢省院洞(義親
 王宮ノ設置スル所)ヲ故ノ端ニ收税所ヲ撤
 削シ徵稅不向ラシメテり派シ在在事出ぬいニ其
 ノ結果、浦是シテ同地ヲ引ルル為語所リ同地
 於之ニ進價ノ勢カハ即座見ルヤモコトナレド
 シ(以下略)

概略及部長、お島

外務省

明治三十八年三月八日

在釜山

領事有吉明

外務省の署長少輔有吉明の署名

(右書、跡由、地方長官、長官、署名)

件申(コナリ)



乙未年六月八日 三月廿日

一進會ト結ラセツ

先頃東京ヨリ荒井徳一、直原守次郎、小林晋一、吉田龍
群等、日韓青年同志會ナルモノヲ組織シ政治以外ニ
テ兩國ノ福祉ヲ増進セント特ニ會合悦中ニ由新
ス紙上ニ敬見スルニカ荒井徳一及韓人ニ爲者
子章郁等、一面直原守次郎ヲ謀主トシテ韓國一進
會ト結ビ地ニ結トニ政黨ヲ樹立セントテ計画ニテ子章郁
及荒井徳一、等、既ニ本年一月五號ノ號ナリシモ
費用上ノ都合ニテ今ニ延引セルモ直原守次郎ハ目下
星洲組(在星洲道義)ノ助力ヲ得ント奔走中ナリ
リト云 因ニ荒井徳一ハ星洲ニ命ヲ請津浦線ニ子ミシ浪瀬

如
印

ラ命ミシレシ高期限中ノモノナリ

明治二十八年二月廿七日

甲秩第百三十三號

一進會員ノ帰國

本報憲方滞在中、韓國一進會員李炳春、許善、李日完、金應鐘、辰應坤、具昌根、六名、一昨日、平井新橋發流車ニテ、帰國ノ途ニ就キタリ、及申報候也

明治二十八年二月廿七日 警視總監 関清英

珍田外務次官殿

機密 受第304/號

明治二十八年二月廿七日

警視總監

印

印

印

310

甲秩第百三十三號

韓國一進會員ノ帰國

本月廿七日、東京、李炳憲方、滞在中、韓國一進會員、金應鐘、辰應坤、具昌根、六名、一昨日、平井新橋發流車ニテ、帰國ノ途ニ就キタリ、及申報候也

明治二十八年二月廿七日

警視總監 関清英

珍田外務次官殿

機密 受第326乙號

内務省 兵部

明治二十九年十一月
 陸軍省
 陸軍大臣
 陸軍少将
 陸軍中將
 陸軍少将
 陸軍中將
 陸軍少将
 陸軍中將

寫

韓小鄭刺意兵隊長よりたの請書あり
 二進歩大紳協会に聯合を請ふに對し新丁計の通
 信名等ノリ神辭部ノ基礎を定むる事あり
 協解の解を力メ立テ者ありて大紳
 協に於て既に既ニ履行の事あり其旨
 ハモノ之又シ備せんと同ノ一進歩大紳協
 會ノ旨ニ達ス協解中ノ向テハ人ノ向テハ
 少子カ至ニ十名有テ其旨ヲ撰定シ其委名を
 所議決定シ之後發表スル旨アリ其旨ニテ且
 言者其旨ヲハリ別所商ノ如ク
 明治二十九年十一月

外務省

韓小鄭刺意兵隊長
 進歩大紳協会

第3門

明治四十二年十月十九日 皇
正管 政務局
別紙御廻覽ニ供シ候間用
濟御返却相成度候也
明治四十二年十月九日

第一課 七の部
少部印男を殿
山

御返却相成度候也
明治四十二年十月九日

外務省
御返却相成度候也
明治四十二年十月九日

外務省

宣言書

我亦多力信来ノ行振ラテ相立ノ感情ヲ
去リ固事トシ我ニ提携ヲ約シ協力ヲ誓ヒシ
ニ妙玉家ノ福利ヲ増進セカカメノミ妙玉氏
ノ懐ヲ救済セカカメノミ野心ノ甚動ニ起
因シ一時的ニ提携ヲ約シカハミララス不慮ニ協
力ヲ誓ヒカハミララス之ヲ既従ノ事莫クシ
シラ將來ノ利言ヲ慮リ我亦多力カ先テ提携
協力シテ遠ニ事ニ一致ノ事ヲ誓ヒテ自奮自
励シテ妙玉氏ノ進退ニ翼々妙玉氏ノ悲情
ヲ救済セシト欲スルニ

外務省

もしん能ハカカハミララス者ノ懇歎慷慨ニ思
慮ナキ者ハ自果自棄シ國運ヲシテ或ハ危殆
ニ陥ラシムトスルニナラス國民生活ノ國難ニ迫
リテ益々甚キヤカク今ニ於テ救済ノ方法
ヲ盡クセシテ前途ニ於テハ我々も亦知ル
カラス社会同好トシテ之ヲ見ルモ一途ニ
之ヲシテモ一方ノ進退ノ急務ニ急ス決シテ傍
觀放逐スルニテアラス是レ幸ニ一致自奮自励
シテ我々も亦知ルカハミララス者ノ我々ニ對
スル我々ノ關係ハ既ニ協定条約ノ規定存スル
要ハ妙玉氏ノ文以高潔ノ域ニ進ニ制彼ノ交
スルニ至ルニテ我々も亦知ルカハミララス者
モ我々も亦知ルカハミララス者ノ我々ニ對

國民の利益
唯此の目的
持心あり
在るに
是し
也。

此に於て清國は其の故にカラスカニ至ラシカ假令
系約の如何せん其の文アリトモ概宜ク其の要トシテ
何時の如何せん其の文アリトモ概宜ク其の要トシテ
時ニカク世界列國の情ニ於テ彼レニ在リテ
ニ在セザルヲ知ラザルカラスカニ別種玉運ノ情
長ノ世ニ一致自奮自勵ヲ要スル所ナリ
蓋日本以て其の中神也トシテ其の自志ヲ別セシカ
カラスカニ神人ノ利益ヲ顧慮スルヲ要スル連カ
ニ各村ノ權利ヲ自志ニ收メテ他年ノ自衛ノ力
ヲ備フコトトモ思フる者アリトモ其ノ自志
合部清國等此山脈ノ所從ニ其ノ各所ナリ
上ニ教見らんニ代レトモ勅諭ヲ為シテ其ノ自志
神玉ヲ運送スルハ彼其の道ノ利益ヲ進メ
シカカラスカニ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ
コト神玉運送ノ言アリトモ其ノ自志ニ其レキテ
修好セザルカラスカニ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ
自ラ招キテ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ
以テ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ其の自志
ニ此務外ハ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ
ニ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ其の自志
其心相違ハ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ
シテ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ其の自志
るニ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ其の自志
利ナクハ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ其の自志
ラ以テ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ其の自志
テ其の自志ノ別ヲ設クカラスカニ其の自志

外務省

仁ヲ宣言シ奉業取東 鏡素 息 憂 鬱 了 故 我 三 學 簿 ナキ ヲ 國語ノ嚮背ニ依リテ國是ヲ定

ムルニ依リテ則チ其ノ持心ノ向ハ其ノ志ノ向ニ依リテ

其ノ志ノ向ニ依リテ其ノ行ニ依リテ其ノ言ニ依リテ

其ノ言ニ依リテ其ノ行ニ依リテ其ノ志ノ向ニ依リテ

其ノ志ノ向ニ依リテ其ノ行ニ依リテ其ノ言ニ依リテ

其ノ言ニ依リテ其ノ行ニ依リテ其ノ志ノ向ニ依リテ

其ノ志ノ向ニ依リテ其ノ行ニ依リテ其ノ言ニ依リテ

其ノ言ニ依リテ其ノ行ニ依リテ其ノ志ノ向ニ依リテ

其ノ志ノ向ニ依リテ其ノ行ニ依リテ其ノ言ニ依リテ

其ノ言ニ依リテ其ノ行ニ依リテ其ノ志ノ向ニ依リテ

其ノ志ノ向ニ依リテ其ノ行ニ依リテ其ノ言ニ依リテ

外務省

リ神ノ解部ヲ設クセシカガメナリト云スレバ

解部ニ至ルニ文以カレバ一級ニアサシニ不ウ

ナリ地年我五ノ文以カレバ一級ニアサシニ不ウ

ナリカカレバ一級ニアサシニ不ウ

ナリカカレバ一級ニアサシニ不ウ

ナリカカレバ一級ニアサシニ不ウ

ナリカカレバ一級ニアサシニ不ウ

ナリカカレバ一級ニアサシニ不ウ

ナリカカレバ一級ニアサシニ不ウ

ナリカカレバ一級ニアサシニ不ウ

ナリカカレバ一級ニアサシニ不ウ

大韓協定會